



祝辞

# 本学教育学部沿革之碑 竣成を祝して

鹿児島大学教育学部長 武隈 晃

鹿児島大学教育学部沿革之碑 竣成・除幕式典にあたり一言ご挨拶申し上げます。教育学部長武隈です。

この度の鹿児島大学教育学部同窓会設立15周年記念事業教育学部沿革之碑竣成を心よりお慶び申し上げますとともに、今後の沿革之碑建立により、ここに集う同窓生・在学生に広く、この学舎の系譜を知らしめていただけるようになりましたことに深い感謝の意を表します。

明治8年、1875年の「小学校授業講習所」設置に起源する本学部の歴史をこの沿革

之碑により辿れば、139年に及ぶ歴史の中で、時に穏やかに、時に激しく、その態様を変えてきたことを思い知らされます。この間、師範学校や新制教育学部が輩出した有為の人材は実に3万5千人に及ぼうとしています。

この重い史実に触れ、改めてここに集い、学んだ同窓生の御霊（みたま）と言霊（ことだま）に触れることが出来るように思われます。同時にそれは多くの同窓生をここにお送りいただき、また支えていただいた多くの方々、保護者ご家族の皆様、旧制中学校

祝詞(メッセージ)

## 思いを馳せる碑として

教育学部同窓会名誉会長 松元 兼俊

今日はほんとうに嬉しい日でありませぬ。長年、こんな碑が建てられたらと願っていました。池之迫会長はじめ同窓会の有志が集い、遂にこの志を達成されました。心からお祝いをいたします。

これには、鹿児島大学教育学部当局のご理解とご協力があつてのこと、重ねて御礼を申し上げます。

教育学部の沿革史の碑に「絆」の文字が刻まれています。「きずな」と読みます。親子・人間同士の結びの強さを大切にする時に用いられています。

また河合隼雄さんの「参照(老いの道)」では、言っておられます。  
・平安時代では「ほだし」と読まれ、馬の脚にからませて歩けないようにする綱を意味しているという。  
・青年期に自立しようとするとき、親子関係など「ほだし」として意識されるのではないかと、そこには人間関係の面白さがあるとも言える。強い「きずな」の存在を前提として、それを「ほだし」と感じて青年は努力する。  
・その逆説のバランスが一人前の成人が誕生してくると言

や新制高等学校関係者の皆様、附属学校園や地域教育関係者の方々をはじめとする皆々様のご尽力の賜と存じております。本日のこのめでたき竣成・除幕式典にあたり改めてまじり敬意と、また深い感謝の意を表したく存じます。  
また、改めて同窓生の皆様の母校となる鹿児島大学教育学部の発展を念ずるとともに、本日ご臨席の皆様様に厚く感謝申し上げます。ご挨拶と致します。

## 沿革之碑 除幕式典

式次第

- ・一同礼
- ・開式の言葉
- ・除幕
- ・同窓会長挨拶
- ・経過報告
- ・祝辞
- ・教育学部長
- ・師範学校卒代表
- ・学生代表
- ・感謝状贈呈
- ・閉式の言葉
- ・一同礼

### 沿革之碑建立実行委員会 実行委員メンバー(敬称略)

- 委員長 池之迫静男(同窓会長)
- 副委員長 石神 正明(同窓会副会長)
- 委員 松元 兼俊(同窓会名誉会長)
- 島田 俊秀(同窓会顧問)
- 坂尾 隆(同窓会顧問)
- 中山 右尚(同窓会顧問)
- 中山 トミ(鹿女子師範代表)
- 野間口 精(鹿師範代表)
- 牧田 良裕(鹿青年師範代表)
- 百枝 盛男(鹿師範豫科代表)
- 榎添 利光(同窓会広報部長)
- 鮫島 寛行(同窓会総務部長)
- 今林 俊一(同窓会理事代表)
- 北原 稔(同窓会幹事)
- 竹之内則好(同窓会幹事)
- 月足 恵(学生代表)

## 各代表より 除幕式式典に臨んで

鹿児島女子師範学校 (S・25卒)

床次 つや子

私達は、昭和22年鹿児島師範学校女子部に入部、当時教場は吾平町にあったが、殆どの人が寮生活でした。寮は、旧海軍通信兵宿舎のトタン屋根で、近くに墓地があり、夜などとても心細かったと記憶しています。

食事野草入りの雑炊で、学校からの帰路、食材の川芹等を摘む事も度々でした。その年鹿児島市へ移転、伊敷の旧兵舎跡で男女共学が始まりました。

以後、師範学校、女子師範学校、青年師範学校など、校名が28回も改称されましたが、昭和24年、鹿児島大学教育学部設置に伴い、昭和26年に教育学部に統合されました。これまでの同窓生は、約3万7千人になるとのことです。

この碑の建立にあたり、実行委員の一員にも加えていただき、感謝いたします。これを機会に、教育学部の歴史に恥じぬようさらに勉学に励みたいと思います。

### 教育学部 技術専修4年

月足 恵

この度は教育学部沿革之碑建立おめでとうございます。学生代表として除幕式に出席させていただきましたこと、とても光栄に思っております。

現在、学び舎である鹿児島大学教育学部の歴史を知っている学生は少ないと思われています。この教育学部の沿革之碑建立により、自分の学び舎の歴史を知る場所ができたことは、学生にとっても喜ぶべきことです。

さらに一般の方や在学中の学生のみならず、来年から入学する学生たちにも歴史が伝わっていくこととなります。これは教育学部の歴史を伝えるために重要なことであるといえます。

### 編集後記

気象庁は2日、九州南部は昨年より6日遅い梅雨入りを発表した。鹿児島大学のキャンパスでも、あちこちで色鮮やかなアジサイが咲き誇っている。以前、会合で北海道に出向いたとき、8月の函館は丁度、アジサイの時節であった。

北海道は6月に入り、中国大陸からの暖気の流れを受けて厳しい暑さに見舞われているという。全国的に、熱中症の症状で救急搬送される人も多い。蒸し暑いこの時期、体調管理には十分に気を付けてい。

鹿児島大学教育学部内の建屋で50年程前に建築され、唯一姿を残していた第2講義棟は、今、解体作業が行われている。新たに学習交流プラザも兼ねるような瀟洒な建築物が実現するらしい。卒業後、社会教育分野に進む学生も多いため、新取の精神を具現化する最適な環境となるものと期待している。

この度、建立となった「沿革之碑」は、管理棟西側に座しており、会員の訪れを待っている。

(北原)